

北区飛鳥山博物館運営協議会での検討事項

これからの博物館について

【主旨】

北区飛鳥山博物館は今年開館20周年を迎えました。これまで館の運営ビジョンの明確化のために平成17年に博物館のあり方をまとめ、これに基づきさまざまな課題をクリアしてまいりました。結果、多くの方々が集う博物館として成果を上げてまいりました。しかし、めまぐるしい社会情勢の変化にともない博物館のあり方を再び検討する必要が生じ、平成24年度から平成25年度にかけて、10年後の博物館のあるべき姿について北区飛鳥山博物館運営協議会においてご検討いただき、これをまとめました（参考資料参照）。その後、実現に向けて検討・策定を進めてまいりましたが、それから5年を経過した現在、さらなる検討を重ね、より良い方向に進めてまいりたいと考えております。

そこで、平成29年度に運営協議会の委員の皆様、特に重点的に考えております2点の検討課題についてどのような展開が考えられるのかをご検討いただきました。今年度より新たに委員になっていただいた方もいらっしゃいますので、改めてご検討いただきたいと思います。

【検討の流れ】

- 平成30年度 第1回 こんな博物館活動をしてほしい
- ① グループ活動と博物館との関わりに関する活動
 - ② 学校教育と博物館との関わりに関する活動
- 主旨説明とフリートーキング
- 第2回 実現にむけての課題とは
- 前回のまとめと課題の抽出
- 平成31年度 第1回 課題を解決するためには
- 前回のまとめと解決方法の検討
- 第2回 まとめ

第1回協議会で検討していただきたいこと

議題：こんな博物館活動をしてほしい

内容：「これからの北区飛鳥山博物館のあるべき姿」において提言しております、「(4) 人と人とが共感しあえる博物館」（参考資料P3）と「(2) 共感

の場を生み出す博学連携」(参考資料P2)に関連して、すでに取り組みを行っているものもあります(下記参考)。しかし、見直しやさらなる拡充をはかるために以下の2点について、どのような活動が望ましく、具体的にどんな展開が考えられるのか委員の先生方それぞれの視点でご意見を寄せていただければと思います。

① グループ活動と博物館とのつながりに関する活動

② 学校教育と博物館との関わりに関する活動

〈参考〉○すでに取り組んでいる活動

① に関する活動

○考古学サポーターズメンバー

考古学講座に参加されたリーピーターの方々と結成。担当者と共に野外講座の計画や実地踏査などを行い、当日も受付や参加者の安全確保などの面でサポートしていただいている。

② についての活動

○来て、見て、さわって！昔の道具

小学校中学年を対象に展示見学と道具体験をセットにした学校対応事業。

○出張授業

小中学校からの要望に応じて、学校へ赴き授業を行う。

○体験授業

小中学校の要望に応じて、体験学習室において体験授業を行う。

○平成29年度に出されたご意見

① に関する活動について

- ・博物館とボランティアグループが手を組んで、学校教育に関わることはできないだろうか。
- ・商店街のグループ？と連携をして、他業種ならではのアイデアを取り入れたらどうか。
- ・街にある文化財の管理などを、地域ボランティアグループにま

かせてはどうか。

- 区民の発表の場になると親しみがわく。

② に関する活動について

- 新指導要領によると教員もタイトな状況になるので、学校に来てもらえるとありがたい。
- 一緒に企画して情報を提供する組織があるといいのでは。
- 社会科だけでなく理科や図工・美術といった視点の連携もあるのでは。
- 新指導要領について一緒に研究していく必要がある。
- 幼稚園や保育園の方の意見を聞いてみるのはどうか。
- 先生方にもっと博物館を知ってもらう工夫を。

③ その他意見

- 博物館の運営に、学校だけでなく商店街や観光に携わっていらっしゃる方などに関わっていただいたらどうか。
- 予算と今後の人と体制が問題。
- アクティブラーニングを導入した新しい講座スタイルを模索してみてもは。講座型から対話型へ。
- 他区の博物館との連携を深め、協力しあう体制が必要なのは。
- 学芸員と区民がもっと近づけるように。